

# 夏季レポート

～ギリシアでの NGO 参加体験について～

大沼ゼミ 4年 石橋遼

2005 年夏休み、卒業論文の研究のためギリシアのザキントス島で毎年行われているウミガメ保護のための NGO、STPS(Sea Turtle Protection Society)に参加しました。

このレポートは私の参加経験をまとめたものです。

## 1. ザキントス島とその環境問題について

ザキントス島はギリシア西部のイオニア海に浮かぶ島です。島は美しいコバルトブルーの海で夏には欧米各地からの観光客で賑わいます。

またザキントス島はその美しい海だけではなく、アカウミガメの産卵でも有名です。しかしアカウミガメは現在絶滅の危機に瀕しています。ここザキントス島でも例外ではなく、観光開発とウミガメ保護の両立が難しくなっています。

具体的な被害は以下の通りです。

- ・ 観光客の立てるパラソルが卵の巣を破壊。
- ・ ボートや釣りによる親亀への事故。
- ・ ビーチ沿いにあるホテルやバーのライト。なぜならば夜間孵化するカメは月光を頼りに海に帰る。しかしライトと月光を間違えてしまうことがある。
- ・ 海の汚染なども影響している可能性。(現在は不確実)

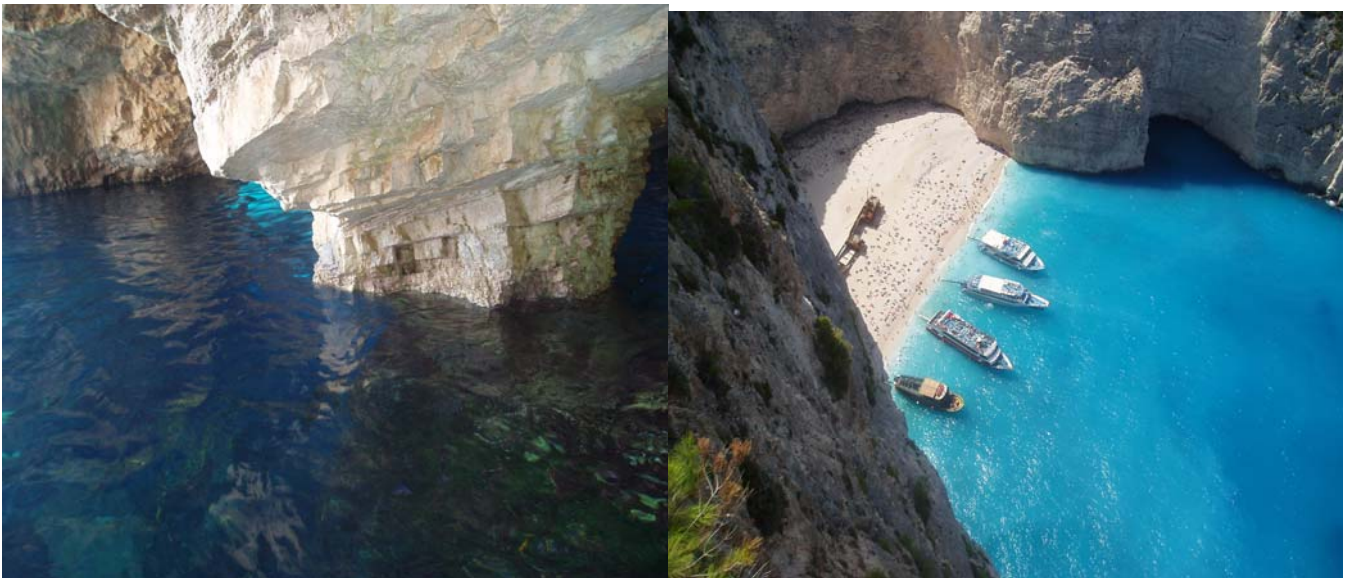


写真 1 (左) ザキントス島の美しい海

写真 2 (右) ザキントス島の最大の観光名所 Shipwreck



写真 3 Turtle Spotting Boat から撮影したウミガメ。

写真 4 海岸の様子。

## 2. STPS(Sea Turtle Protection Society of Greece)について

このウミガメの危機を救うべく、1977年生物学を専攻していたギリシア人の大学生が NGO (Non Governmental Organization) 法人として STPS を立ち上げました。STPS は文字通りウミガメの保護のための組織であり、ザキントス島でのボランティア活動、クレタ島でのウミガメリハビリセンター、ペロソネポス半島でのウミガメの生態調査を運営しています。(ギリシア国内のみ)

NGO 法人とは政府とは関係を持たず、主に公共の利益に貢献するアクティビティを行う組織を指します。NPO(Nonprofit Organization)との違いは、NGO は利益を挙げることがあることに対して NPO は利益を挙げないことです。(明確な線引きはなさそうですが) したがって私が所属していた団体はグッズの売上などで利益を上げることがありました。

## 3. Volunteer

現在毎年4月から10月までの半年間このプログラムに大勢の人々が参加しています。ピーク時の7,8月には約60人が滞在していました。

ほとんどがヨーロッパから(イギリス、ドイツ、フランス、イタリア、オーストリア、スイス、ギリシアなど)参加者であり、アメリカ、オーストラリアから数名参加者がいました。アジアからの参加者は私以外いませんでした。

年齢層は多様でしたが、大半は学生でした。生物学を専攻している学生が非常に多かったです。また学生のみならず生物学の先生や教授なども参加していました。他にはリゾートを安く楽しむための参加者や海外で普段とは異なる体験を求めて参加している人もいました。

生活は非常に簡素なものでした。当然ベッドはなくテントで生活でした。ホットシャワーはなく、トイレも工事現場においてあるような移動式トイレでした。食事は交代で作りました。これほど質素な暮らしをしたことはなかったのでいい思い出になりました。



写真5 キャンプサイトの様子



写真6 共用ハンモック



写真7 ベンチの工事中。全て自分達で賄います。



写真8 メインテーブルの様子



写真8 夜はたまに出かけます。



写真9 犬を飼っていました。

## 4. The Shift

具体的にどのような仕事を行ったのか説明します。STPS の目的は大きく二つあります。一つがウミガメの生態学的な調査であり、もう一つが国民や旅行者のウミガメ保護の意識を向上させることです。この二つに雑務を加えて仕事の種類を大きく 3 つに分類することができます。1日約6～8時間程度働きます。

### 4-1 生態学的な調査

1. **Morning Survey** : これは早朝にビーチへ行きどの巣からどれだけの孵化が行われたかをチェックする作業です。それぞれの巣には番号がつけられており、親の巣か知ることができます。(6,7月の産卵シーズンでチェックしているため)

2. **Excavation** : これはそれぞれの巣の初めての孵化から14日後に巣を掘り返し卵をチェックする作業です。これはその巣がどれくらい成功したかどうかを知るために行います。データは親(先に述べたようにそれぞれの巣の親は分かっています)や場所(観光客がよく通る場所か否か等)、時期などによってどのような傾向があるかを知るための判断材料として使われます。



写真 10 Morning Survey の様子



写真 11 ウミガメの赤ちゃん



写真 12 赤ちゃんが歩いた跡 (これを基に巣の場所や孵化した数を調査します)



写真 13 卵の殻（掘り返して調査します）

写真 14 必ず人が集まってきます。



写真 15 孵化できずに死んでしまった胎児

写真 16 さらに早い時期に死んでしまった胎児

### ※ 一つの巣の管理方法

ここで巣がどのように管理されているかを載せます。

5月～7月 産卵シーズン 母親亀は深夜にビーチにやってきて産卵を行います。このときに母親カメのヒレにタグをつけます。前年以前にタグがつけられた母親亀にはタグを取り付けません。これは翌年以降再び産卵に訪れた際に役に立ちます。Excavation と併せてその母親亀の産卵とどれくらい成功した巣を作るか記録できます。また亀の人口も計測することができます。

そして巣に番号をつけ、番号を書き込んだ小さな石を巣に入れておきます。これは後の Excavation を行うときにどの親の巣であるか確かめるためです。

8月～10月 孵化シーズン 早朝に海に行き、上の写真 12 の足跡をたどり、どの巣から孵化したかをチェックします。初めて孵化が行われた巣を記録し下の写真のようなポールで囲います。これは孵化を鳥や犬から守るためです。産卵から約 2 ヶ月後に孵化が始まります。

そして初めての孵化から 14 日後に Excavation を行います。14 日で確実に全ての卵が孵化するか死んでしまうか決まります。

この一連の作業によりどの巣がどの母親のものであるかを知ることができ、生態学的なデータを集めることができます。また翌年以降もタグをつけた母親が来るため母親と巣の場所と時期によって巣がどれくらい成功したかの因果関係を知ることができる。



巣を守り、場所を知らせるためのポール。

#### 4-2 Public Awareness の向上

##### 1. Beach Patrol

ウミガメの巣があるビーチに1～2人で3時間パトロールします。ウミガメは海岸から約5メートル後ろに卵を産みます。したがって海水浴を楽しんでいる観光客にビーチの後ろ側ではなく海沿いを歩くように注意を呼びかけます。またインフォメーションセンターでウミガメに関する情報提供も重要な仕事です。



写真 17 インフォメーションセンター



写真 18 Beach Patrol の様子

##### 2. Slide show at Hotel

ホテルにてディナータイムにプレゼンテーションを英語で行います。内容はウミガメの歴史や生態、そして現在危機に瀕していることを説明します。言語は英語です。たまにドイツ語でプレゼンテーションを行います。

また STPS のロゴが入ったグッズの販売を行います。また寄付やスポンサーも募っています。多い時で200ユーロ近く売り上げます。寄付も最高で1日30ユーロ集めることができます。

##### 3. Slide show on the Boat

Day Tour のボートに乗り込みプレゼンテーションを行います。ボートは2種類あります。一つが島全体をめぐる150人乗りの大型ボートです。もう一つが10人ほど乗ることができる小型の Turtle Spotting Boat です。STPS からの参加者はお金を払う必要がなく、無料で Tour を楽しむことができます。ホテルの時と同様にグッズの販売や寄付・スポンサー加入を呼びかけます。



写真 19 プレゼンテーションの様子



写真 20 船の上でのグッズ販売

#### 4. Safe Guarding

夜の 10 時～3 時まででビーチの入り口に立ち、観光客がビーチに入らないように見張ります。ウミガメは深夜に孵化するからです。孵化を見に来る人、花火をする人、バイクを乗り回す人などが多く存在するからです。

##### 4-3 その他の仕事

- ・ ドライバー：シフトに入っている人たちを海岸やホテル港などに送ります。
- ・ 料理係：全員分の食事を用意します。
- ・ 掃除係り：キャンプサイトのシャワーやトイレやゴミ箱などを清掃します。

#### 5. NGO に参加しての感想、考察

私が今回のプログラムに参加して最も強く感じたことは、経済的な手法で環境を守るということは極めて効果的なことだということです。そう思った根拠は二つあります。

一つは人間はやはり自分にとって最も合理的に行動するということを目の当たりにしたからです。例えば海岸沿いにホテルを建てることは個人の利益にはなるかもしれないが前述の通りウミガメにダメージを与えてしまいます。他にも同じ現象を多々見る事ができました。仮にウミガメが激減・絶滅してしまえば、島を訪れる観光客が減り、結局は海岸沿いにホテルを建てた人も損をしてしまいます。要するに個人と全体、短期と長期の利益は異なるわけです。

また残念ながら私が参加したボランティア活動だけではウミガメを保護するのは限界があると思いました。例えば我々がいくら観光客やホテルのオーナーの善意に訴えても全員が聞き入れてくれるわけではありません。また海岸のゴミを全て把握することも不可能です。(ウミガメがビニールなどをクラゲと勘違いして食べて死んでしまいます。)

これらの二つの点を踏まえ、一部の人間だけでなく社会全体でウミガメ保護に取り組んでいかなければならないと感じました。そしてそのためにはウミガメの保護のための経済的システムを導入する必要があると思いました。例えば海沿いにホテルを建てる場合はより多くの税金を払うべきである、夜ライトを消さなければ罰金を科すなどです。

しかしながら経済的手段だけでは万能でないといえると思います。例えば前述のゴミ問題にしても国民の意識を向上させることも経済的な手段ではできません。多くの環境問題は

全員のちょっとした意識で大きく解決・改善するものだと思います。しかしそれが実践されていないのが現状です。今回の体験を通じて、その問題を解決できるのがボランティア活動だと思いました。なぜならば経済的手段は費用がかかりすぎるため全ての行動をモニタリングすることができないからです。つまり経済的手段とボランティア活動を相互に補完させることにより、環境被害を防ぎ、さらに社会をより良くしていけるのではないかと思いました。

私は旅行中多くのバックパッカーに出会いました。彼らから『単純に旅をして、感動するよりも社会に貢献したい。観光のみではなくて地域の生活を体験してみたい』という意見を聞きました。NGO 活動はその需要を満たすことができると思います。また NGO 活動は新しい形の国際交流であり、例えば生物学を専攻している人たちにも実体験の機会を与えることができます。私は今後 NGO の重要性と存在感はますます大きくなっていくものだと今回の経験を通じて感じました。

大沼ゼミの3年生も来年時間があれば是非参加してみたいはいかがでしょうか？  
何か質問・意見がある方はこちらまで [ryoishi@jcom.home.ne.jp](mailto:ryoishi@jcom.home.ne.jp)  
STPS Website <http://www.archelon.gr/index.htm>